

教育長定例記者会見 会見録

日時:平成30年2月16日 15時30分～

場所:教育委員室

発表項目

- ・平成29年度「次世代の学校・地域創生フォーラム」の開催
- ・県立松阪あゆみ特別支援学校内覧会の開催

質疑事項等

- ・発表項目について
- ・県外からの県立高等学校への入学志願について
- ・財政状況の教員採用への影響について
- ・インターハイ総合開会式の入場行進曲 試奏会のお知らせ

発表項目

(教育長)私の方から2つ発表します。まずフォーラムのほうです。

2月27日(火)に、三重県人権センター 多目的ホールにおいて、「次世代の学校・地域創生フォーラム」を開催します。このフォーラムは、学校教育と社会教育の連携・協働を図って、取組を一層充実させることを目的として開催します。

前半は、3つの団体からの実践発表があります。1つ目は、コミュニティ・スクールの仕組みを取り入れた、名張市立南中学校、それからつつじが丘小学校による小中一貫教育の取組の発表です。英語教育やふるさと学習など小中一貫のカリキュラムに取り組んでいる学校です。2つ目は、熊野市学校支援本部による地域未来塾の発表です。地域未来塾は、経済的な理由や家庭の事情により、家庭での学習が困難であったり、学習習慣が十分に身につけていなかったりする中学生等への学習支援を行うもので、熊野市では、長期休業中に帰省している大学生を地域未来塾の講師として活用し、地域の子どもたちの学びをサポートしています。3つ目は、いなべ市放課後子ども教室「ほくせい」による発表で、地域住民や子ども会連合会などの団体が連携して、子どもの教育に携わる地域人材の発掘に取り組んでいます。

後半のパネルディスカッションでは、それぞれの発表をもとに、「社会全体で子どもたちを育てるために、どのように取り組むか」をテーマに、学校、行政、地域のそれぞれの立場から意見交換を行い、学校教育と社会教育が連携・協働を図るための方策について討議を行います。パネラーには、先ほど紹介した3つの団体から各1名と地域学校等協働活動推進委員会委員長を加えた4名、コーディネーターには、文部科学省視学委員であり、1月17日に本県の政策アドバイザーに就任いただきました貝ノ瀬滋様に依頼しています。

フォーラムの前身は、学校教育の立場から地域と連携した学校づくりを推進するフォーラムとして、平成24年度から始まりました。昨年度は、社会教育の立場から地域の教育力を向上する取組の発表も一緒にということで、社会全体で子どもたちを育てるという視

点を重視したフォーラムとし、今年度から、名称も「次世代の学校・地域創生フォーラム」に改めました。

このフォーラムについては、市町の教育委員会を通して案内をしているところですが、当日来場していただければ、どなたでもご参加いただけます。問い合わせ先は小中学校教育課でして、事前の申し込みは不要となっております。ぜひ、よろしくお願ひしたいと思います。

2つ目は、特別支援学校の内覧会のお知らせです。県立松阪あゆみ特別支援学校については、この4月の開校に向け、整備を進めています。このたび、校舎が完成しましたので、内覧会を実施します。内覧会は、3月17日（土）です。午後1時から4時半までは自由に見学いただけます。申し込みは不要です。どなたでもご覧いただけます。先ほど説明した、午後からの一般公開に先立ち、報道関係の皆様方には、午前9時から12時までの間、校舎をご覧いただく時間をお取りしておりますので、ぜひともお越しいただきたいと思ひます。

場所は、松阪市の旧三重中京大学の跡地です。小学部・中学部・高等部を設置し、通学区域は、松阪市・多気町・明和町・大台町です。児童生徒は、約140人を想定しています。校舎は3階建てで、後ろに写真と図面も載っていますが、1階に小学部、2階に中学部、3階に高等部の教室を設け、その他の施設としてはプレイルーム、体育館、音楽室、実習室などがあります。

実際、私も少し前に校舎の視察をしました。窓が多く開放的な明るい校舎で、地域の方々にも来ていただきやすいスペースも設けています。1階の小学部の教室からは、遊具のある「あそびのひろば」へ直接出ることができるため、休憩時間やお昼休みに、教室からすぐに外へ出て元気に遊ぶことができます。また、高等部には、卒業後の就職を見据え、窓拭きや掃除機かけなどの清掃技能を習得できる作業室を設置しているのも特徴です。

3月中に外構工事、備品等の納入を終え、4月から新しい学習環境の中で、教育活動に取り組んでいきます。ぜひ内覧会、報道の関係の方も見ていただきたいですし、一般の方にも午後お越しいただきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。以上です。

発表項目に関する質疑

(質) この特別支援学校って、この地域の子どもさんは、今どこに行ってたんでしょうか。

(答 特別支援教育課) 特別支援学校玉城わかば学園に、現在は通学しております。

(質) 玉城わかばって結構パンパンっていうか、人が多くてっていう話でしたよね。玉城わかば学園には今何人通っていて、そのうちの140人が移るような理解でいいんですかね。その数字を教えてくださいなんですけど。

(答 特別支援教育課) 玉城わかば学園の方は約260名ほどおまして、その中の約半数が松阪あゆみ特別支援学校に転入というか移るんですが、140名というのは玉城わかば学園の方から転入してくるものと、小学部、中学部、高等部に新たに入学する児童生徒を含めて、全体で140名を想定しております。

(質) 工事期間と総工費を教えてください。

(答 特別支援教育課) 工事期間は、建築が平成28年の7月より建築工事を開始しまして、校舎は平成29年11月に完成いたしました。建築の費用は20億7,065万1,600円です。

(質) さっき言った玉城わかば学園から、新しくなったことで、教育でこれまでも知的障がいのお子さんにはいろいろやってこられたと思うんですけど、教育内容がなんかこれによって、新しくできるようになるとかあったりするんですか。

(答 特別支援教育課) 基本的には転入した子どもたちが環境になじみやすいように、同じような学習環境でさせていただきながら、松阪あゆみ特別支援学校の独自のものをだんだん積み上げていきたいとは思っております。ただ、松阪市の市街地に、今回は特別支援学校を設置することができましたので、近くの企業様ですとか事業所様、小中学校、高等学校も近くにたくさんありますので、職業的な現場実習を増やしていくですとか、あと小中学校、高等学校との交流なども、これまでよりは近くにありますので増やしていきやすい環境にありますので、この市街地にあるという特徴をこれからは生かしていきたいというふうに考えております。ですが、環境に慣れるまでに時間のかかる子どもたちが多いですので、徐々に独自のものを増やしていきたいと思っております。

(質) もう一回だけすみません。玉城わかば学園はたぶんプレハブの校舎とかもあったと思うんですけど、かなり環境としてはちょっともう一杯一杯だったっていうか、キャパオーバーだったという状況だったということですか。

(答 特別支援教育課) そうですね。プレハブの校舎で高等部の方が、特に中心に学習をしていたんですけども、ご存知のように、夏は暑いような環境とかもありましたので、これに対応していかなければいけないということで、松阪地域にということ考えてやってきました。4月からは玉城わかば学園の方も本来の適正な規模に近づくといいことでやらせていただきますし、プレハブ校舎に関しましては、夏を目途に撤去ということで進んでおります。

(質) 特別支援学校は、何校目になるんですしたっけ。

(答 特別支援教育課) 分校もあわせて18校目になります。

(質) 教育長から新学校への期待の声を一言。

(答) やっぱりインクルーシブ教育というの也被言われていますけれども、特別支援学校に通うという子どもたちについては、一人ひとりに寄り添った支援ができていくように、新しい建物ですので、余計その意を強くしたというのが実感です。

その他の項目に関する質疑

○県外からの県立高等学校への入学志願について

(質) 越境の方、今どういう作業中で、今後どういうスケジュールで進んでいくのかをお教えてください。

(答) 今ですね、第5回まで行った後、お示しさせていただいたように、25の検討対象校っていうのがあったと思いますけども、そのうち各学校の活性化協議会があるところで説明をさせていただいて、実際に他県から来る学校にしていくかどうかっていうのを、今話し合ってもらっているという状況です。

(質) いつ決まるんですか、この対象校っていうのは。

(答) その結果が集まるのが2月の終わりぐらいですね。最後の会合が2月の下旬だったと思いますので、それが集まってくるのは2月の終わりになると思います。そこで、教育委員会の方でそれを見て、その意見を踏まえてどうするかっていうことをまとめて、第6回を行います。

(答 高校教育課) 第6回は2月の下旬から3月の1週目ぐらいに開催する予定であります。

(質) 検討会の話ですか。

(答 高校教育課) はい。

(質) 検討会が2月の？

(答 高校教育課) まだ未定なんですけど、その出た結果を受けて3月の上旬までには開催をしたいと考えています。

(答) 今、検討会の委員の日程を調整してと思っていますので、2月の下旬か3月の上旬ぐらいにその検討会を開催します。その前段階として、活性化協議会で話された内容をそれまでに取りまとめて、お示しする作業をしなければならないという状況です。

(質) 25校に対して、対象校になってるけども、それぞれの学校でやりますかみたいなことを、今投げてる段階ですね。

(答) そうです。

(質) それの各学校からバックが来るのはいつなんですか。

(答 高校教育課) 部活動を通じてというのが2月19日だったと思います。そのあと月末の27日あたりを、それ以外の小規模校のところは一応の締め切りにはしています。

(質) 検討会を3月上旬までにやって、3月の定例会っていつあるんでしたっけ。

(答 教育総務課) 3月の定例会は12日と23日です。

(質) どちらにける予定ですか。

(答 高校教育課) 23日の予定です。

(質) ここで最終的に決まる？

(答) そうですね。31年度に入ってくる子たちがっていうのを決めます。

(質) 今のところの返事の状況はどうですか。

(答 高校教育課) まだ、数校です。

(質) 一部、小さな学校で、とりあえずは越境入学は最初の年はやらないということを決めたような学校があるやに、ローカル紙なんかで見ましたけど。

(答 高校教育課) まだ、正式な学校の結論は聞いてはないですが、協議会等でそのような議論があったという話は聞いてはおります。

(質) わかりました。

○財政状況の教員採用への影響について

(質) 県の予算で、財政がかなり苦しいというなかで、人件費がということで、財政課に聞くと、学校の先生が高齢の方が多いたのが、人数的にいても、かなり県の人件費のウェイトを占めていると。この部分がしばらくしたら解消していくのでというお話がありました。人件費削減としたときに、人数の多さからいっても、どうしても学校

の先生というのはなかなか厳しいのかなと思うんですが、その辺が採用活動等に影響しているということは今のところあるんでしょうか。

(答) 人件費がどうだから、採用活動がどうのこうのっていうのは、それはありません。子どもの数によって、クラス数も決まってくるというところから、数を決めてっているんで、人件費が圧迫するから採用を控えてという、そういう因果関係は一切ないです。

(質) 逆に言うと、財政課にすると、人件費を今、一生懸命削減していますというふうに言ってるわけですが、教職員の先生に関しては、その辺はあまり関係ないということですか。

(答) やはり計画的に。子どもたちの数が減って、どの科目も、技術・家庭とか図工とか美術もありますが、きちっと計画的に考えて採用します。もちろん、事務局についても、緊縮というか必要な人員で配置しようと考えておりますので、そういう意味で全く関係ないことではないですけど、子どもたちの数によってということで、それは全く変わりありません。

(質) わかりました。

○インターハイ総合開会式の入場行進曲 試奏会のお知らせ

(教育長) 発表ではなくて、一つだけお知らせをさせていただきます。

1月26日の知事定例会見で発表させていただきました、インターハイ総合開会式の入場行進曲「Millaie (未来(みらい)絵(え))」の試奏会を、来週月曜日の19日17時20分から県立白子高等学校において開催します。詳細な内容が確定いたしましたので、改めて本日午前に報道提供をさせていただきました。作曲者の宮川彬良さんにお越しいただいて、高校生に直接指導していただきますので、当日の取材、もしお時間がありましたら、よろしくお願ひします。

(以上) 15時47分 終了